

環境破壊、環境汚染の悪化に伴い循環型社会構築が叫ばれ始めてから久しい。いまや地球環境が危機に瀕しているのは周知の通りである。現代の日本は大量消費・大量生産で成り立っている。私たちの周りには物があふれ、物質的な面では非常に豊かと言えるかもしれない。しかしその一方で、多くの物が毎日ゴミとして捨てられている。ゴミと一口に言っても、家庭から出る紙クズ、生ゴミ、プラスチック、缶、ビン、工場から排出される産業廃棄物など多岐にわたる。これらのゴミが日々大量に搬入された処分場は、それらの処理に追いつかずパンク寸前だ。単に廃棄物対応の循環ではなく、すべての資源が効率的に循環できる「循環型社会」の構築が求められている。循環型社会形成のためには、住民、事業者、行政が互いに協力し合い、リデュース（廃棄物の発生抑制）、リユース（製品・部品の再利用）、リサイクル（再生資源の利用）といった3R（スリーアール）の取り組みを進めていくことが重要である。

最上地方の豊かな環境を確保し、どのようにして後世に残していくかを考えた時に、限りある資源をリサイクルし続けることが、その問題に対して、現時点ででき得る数少ない行動の一つであろう。弊社は、平成6年11月に産業廃棄物最終処分場、最上クリーンセンターを稼働開始させ、資源リサイクルに必要な産業廃棄物処理・収集運搬や中間処理を行ってきた。

平成14年、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の改訂に伴い、既存の1号焼却炉の改築を行うと共に、ロータリーキルン型焼却炉と表面熔融炉を組み合わせさせた2号炉の新設を行った。新設した焼却熔融炉はあらゆる廃棄物の焼却はもとより、燃え殻・煤塵等を熔融処理することによりスラグ化し、そのス



サーマルリサイクルによるコチョウラン栽培の様子

ラグをコンクリートの骨材として再資源化するマテリアルリサイクルへの取り組みとしている。また一方で、稼働時に大量の熱源を発生させるため、この熱源の有効利用（サーマルリサイクル）を行うことにした。当初は発電施設の建設も考えたが、地域農業の所得向上も考慮し、他県の熱源栽培施設を視察した結果、ハウス園芸を行うことで話がまとまった。

地域の皆さまに利用していただくことを前提に4名でハウス園芸の主体となる、「農事法人・最上グリーンファーム生産組合」を発足、平成15年秋に1,500㎡の園芸ハウスを建設した。焼却施設を冷却す

## バリューサイト VALUE SIGHT

# 捨てる社会から リサイクル社会へ 焼却熱利用の ハウス農業

総合建設業と蘭栽培。一見ミスマッチと思われる関係だが、建設業で発生する廃材を焼却し、その廃熱を利用し蘭栽培に成功した建設会社がある。資源を循環させ付加価値を発生させる「サーマルリサイクル」の発想である。

る際に発生する一定温度のお湯をハウス内部にパイプで循環させることで、冬は暖房、夏は冷房に活用する仕組みで、設備費用は掛かるが、燃料費は無く、ランニングコストが掛からないのが特徴である。試験的に観賞用「マウンテンチェリー」の栽培から始めたのだが、殊の外うまくいき、私が仙台の花きの専門家と知り合い関係だったことで、コチョウラン栽培も行うことにした。

私たちは農業に関する多少の知識は持っているものの、コチョウラン栽培に関しては全くの素人。平成16年1月、園芸ハウスの室温設定すら分からないまま、手さぐりで蘭栽培を開始した。蘭栽培で重要なことは、ハウスの室温は18度から25度に保つ、葉焼け防止のため直射日光が当たらないようにする、

水管理の3点で、常に変わる気象状況に応じた確かな判断をしなければならない。栽培当初、ハウス温度を15度に設定していた。仙台でコショウラン栽培をしている堀江氏が様子を見に来てくださった際、「こんなに寒かったら花が凍傷にかかってしまう」とのおしかりを受けた。栽培ノウハウを全く持たない状態では、当然ながら花が咲くどころか芽すら出してはくれない。山形県でコショウラン栽培はほとんど行われていない。地元の農協、農業普及所など身近に蘭栽培の専門家がいなかったため相談ができなかったが、堀江氏や日本最大級市場である大田花き市場の

ターネット等での販路拡大を図っている。現在、週1回のペースでの蘭出荷を行っている。弊社のコショウランは1鉢2千円からという破格値で購入できることが一番の売りで、今までで5千鉢以上を出荷させている。弊社のコショウランを購入してくださった方には購入した翌年に限り、鉢をお預かりし、花を咲かせるサービスも行っている。

現在は、平成16年に新設された園芸事業部を軸に、マウンテンチェリー、コショウランに続き中玉トマトの栽培にも着手している。平成16年から作り始めた中玉トマトであるが、糖度が平均で8~9度、最高で11度の糖度を記録し、市場関係者を驚かせた。この品質を維持し続けることができれば、都内有名料亭との契約も夢ではない。今後は、ストックや山菜栽培などでハウスをフル活用しながら、栽培技術の向上と生産拡大を目指していく。新分野の事業を拡大することでの新規雇用はもとより、販売環境を整えることで農家人たちの意識向上となり、最終的には地域の経済発展につながると考えている。

平成15年9月、国土交通省の「3R推進協議会会長賞」の全国表彰を受けた。私たちが行ってきた、環境に優しく公害のない施設作り、単なる焼却施設としてだけではなく環境順応型施設として焼却熱の廃熱をハウス園芸の熱源として供給し、地域農家の活性化に役立っていること、国際規格のISO9001・14001を認証取得するなど品質の保持・環境の保全活動に努めていることが評価されたものである。今後もクリーンな資源エネルギーをリサイクルし、人と、地球と、未来のために行っていきたい。美しい大自然を守り、世代を超えてここに住んでいてよかった、訪れてよかったと思える最上地方になることを願ってやまない。

# 最上



株式会社大場組  
代表取締役

大場 利秋

方々から多大なお力添えをいただいたおかげで、花を咲かせることに成功した。しかし、2週間後に出荷を迎えようとしていた時、ハウス内すべての花がしぼんでしまうというアクシデントに見舞われた。数日前に役場や関係各所に渡した蘭の状態を問い合わせしてみたが、美しく咲いていると言う。この原因は未だに分かっていない。

ゼロから始まった取り組みが思った以上の結果を出し始め、平成16年7月から本格出荷を開始した。商品価値がいかほどのものであるかを知るために全国の市場への出荷を試みたが、評価がまちまちであったことと流通コストを考えた結果、東北一円と東京の市場に絞らざるを得ないことにした。より多くの人に弊社のコショウランを知っていただくため、イン

## 大場 利秋 (おおば・としあき)

株式会社大場組 代表取締役。  
昭和23年11月5日生まれ。最上町在住。  
昭和46年11月に最上町で土木建築業を主体として、株式会社大場組を創業。関連会社に医療法人ローズ村山、社会福祉法人古川千宏会があり、医療・社会福祉の方面にも力を注いでいる。  
株式会社大場組 本社  
〒999-6212 山形県最上郡最上町大字志茂277-6  
TEL 0233-44-2424(代)